

授業科目	聴覚障害Ⅲ (各論)				
担当者	田中美郷・大森千代美・中井弘征・本庄良一・山口忍				(オムニバス)
実務経験者の概要					
学科名	言語聴覚専攻科	学 年	2 年	総単位数	2 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

聴覚障害児対策の歴史的経緯最近の動向、およびSTに期待される役割。聴覚障害児の診方と対策。聴覚障害児の言語指導とその目標。人間の聴覚機能・聴覚活用の方法：補聴器・人工内耳。私の50年にわたる実践研究とその成果（田中）聴覚障害教育における指導・支援の実際について学ぶ（中井）難聴乳幼児の発見とことばを育てる関わり方について学ぶ（大森）補聴器適合の基本的スキルと、乳幼児・学童児・青年期の各年代ごとの補聴器支援・装用指導について実務上の留意事項を学ぶ（本庄）

■ 到達目標

1. 人間と動物の違いを決定づけるものは何か 2. 聴覚障害児教育は人間化教育、そのためにはどのような方策があるか 3. 言語とは何か、聴覚言語と視覚言語 4. 日本語をいかに育てるか そのための支援方策 5. これらの問題にグローバルな視点でいかに取り組むべきか（田中）個々の実態に合わせたコミュニケーション方法や指導・支援について理解できる（中井）難聴乳幼児のことばを育てるための関わりの技法や実際の療育の様子を知る（大森）1. 補聴器適合に関する具体的操作が説明できる 2. 各年代ごとの留意事項を説明できる 3. 補聴器援助機器の役割と適合について説明できる 4. 装用に関わる理解啓発指導について説明できる（本庄）

■ 授業計画

- 第1回 聴覚障害児対策の歴史的経緯と最近の動向 早期発見・早期対策（田中）
- 第2回 聴覚障害児の診方と対策（田中）
- 第3回 人間の聴覚機能：脳の視点から（田中）
- 第4回 聴覚障害児の言語指導とその目標・方法（田中）
- 第5回 日本語教育における聴覚活用（補聴器・人工内耳）と手話の活用（田中）
- 第6回 私の実践とその成果からみた提言（田中）
- 第7回 難聴児の発見（大森）
- 第8回 難聴児のことばを育てる関わり（大森）
- 第9回 難聴児療育の実際Ⅰ（大森）
- 第10回 難聴児療育の実際Ⅱ（大森）
- 第11回 聴覚障害教育を理解するための歴史的経過（中井）
- 第12回 聴覚障害教育の実際Ⅰ（聴力の把握、聴覚学習）（中井）
- 第13回 聴覚障害教育の実際Ⅱ（言語指導・自立活動、進路）（中井）
- 第14回 教育機関での補聴器装用指導：ライフステージに合わせた指導と支援①（本庄）
- 第15回 教育機関での補聴器装用指導：ライフステージに合わせた指導と支援②（本庄）
- 第16回 教育機関での補聴器装用指導：ライフステージに合わせた指導と支援③（本庄）
- 第17回 教育機関での補聴器装用指導：ライフステージに合わせた指導と支援④（本庄）
- 第18回 聴覚障害の心理的援助（1）（山口）
- 第19回 聴覚障害の心理的援助（2）（山口）
- 第20回 聴覚障害の検査と評価（1）（山口）
- 第21回 聴覚障害の検査と評価（2）（山口）
- 第22回 聴覚障害児ケースワークⅠ（山口）
- 第23回 聴覚障害児ケースワーク（2）（山口）
- 第24回 聴覚障害児ケースワーク（3）（山口）

- 第25回 聴覚障害を来す疾患の復習1 (山口)
- 第26回 聴覚障害を来す疾患の復習2 (山口)
- 第27回 聴覚障害の遺伝子診断 (山口)
- 第28回 聴覚検査の復習1 (山口)
- 第29回 聴覚検査の復習2 (山口)
- 第30回 まとめ (山口)

■ 評価方法

筆記試験100%

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

教科書指定されている「聴覚障害の実際」のⅠ基礎編を、第1回～第6回の集中講義前に、Ⅱ実践編を第7回～第10回の集中講義前に読了しておくこと。

■ 教科書

書名：標準言語聴覚諸障害 聴覚障害学
著者名：中村公枝 城間将江 鈴木恵子
出版社：医学書院

■ 参考図書

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって